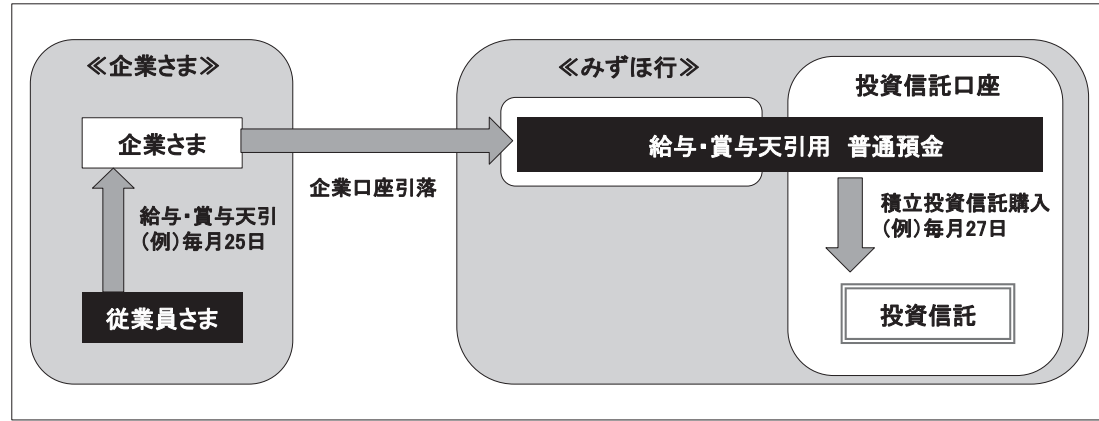


天引きNISAのスキーム図



から投資へ』という流れが加速しています。そこで、従業員の資産形成を支援したいというニーズを持つ企業のために、より良い制度、より多くの選択肢を提示できないかと考え、『天引きNISA』を開発しました。(高村義一・みずほ銀行職域営業部長)

給与天引きで積立投資ができる仕組みは従業員にとって利便性が高い。金融機関としても、1件1件は小口でも長期間の取引が見込まれることから、取引基盤の拡大につながるようになる。天引きNISAは企業と従業員、金融機関のいずれにおいてもメリットのある制度だといえる。

ここで、天引きNISAの仕組みについて簡単に説明しよう。

まず、みずほ銀行が企業で、ライフプランの重要性を切り口にした初心者向け投資教育セミナーと制度の

成を支援し、「貯蓄から投資へ」の流れを促進するために、積極的なNISAの活用推進に取り組んでいる。みずほ証券との連携による商品ラインナップの拡充や利用者の事務手続き軽減などの取組みが好評を博し、みずほ銀行とみずほ証券を合わせて、約50万件のNISA口座の開設を達成している(2014年9月末)。

職域営業においても、積極的な取組みを展開。2008年4月に職域営業部を新設し、給振口座の取扱い、財産形成に役立つ情報の

説明会を実施し、その後天引きで投資信託の購入を希望する従業員を営業店でフォローする。希望者は月1000円以上で積立額を設定し、運用商品を選定。企業は給与からの額をみずほ銀行の口座に入金し、同行はその資金をもとに指定商品の買い付けを行う。年間の積立額がNISAの上限の100万円を超えた場合は、超過分が一般口座に振り向けられる。

積立商品については、みずほ銀行が取り扱うすべての商品から選ぶことができる。また、天引き額を変更する場合は企業への連絡が必要だが、商品の変更については利用者がみずほ銀行に直接相談すれば行えるようになっている。

従業員の資産形成支援に取組みたい企業に提案

制度提案のターゲットとなるのは、従業員の資産形成面における福利厚生制度を充実させたいと考えている企業。例えば、財形貯蓄・社内積立預金といった制度のない企業や、制度はあっても利用が低下傾向にある企業等だ。

みずほ銀行では、こうした企業に向けて、財形貯蓄や社内積立預金、持ち株購入などに並ぶ従業員の資産形成支援制度の一つとして、天引きNISAを提案。福利厚生制度を充実させたいという経営者のニーズを喚起している。

しかし、企業からは「手間がかかるのではないか」「福利厚生制度なのに、損失が出る可能性があることに抵抗がある」といった声がかかることもある。そうした場合には、「従業員全員への強制ではなく、最後は従業員個人の判断となる」「商品説明や投資セミナーはすべて当行が行い、ご納得いただいた従業員の方に商品提案する」といった説明をし、企業の不安を払しょくする。

2015年3月時点で、関東圏を中心とした約200社の企業に提案を行っており、そのうち15社以上の企業が制度に興味を示し、4社で成約に至ったという。

定期的なセミナーを実施し従業員の利用ニーズを喚起

契約後にも積立投資商品の変更



昨年12月に給与天引きでNISA口座内での積立投資ができる「天引きNISA」スキームを他行庫に先駆けて開発し、成果を上げているみずほ銀行。職域営業での新たなNISA提案の方法として注目を集めている。

本稿では、みずほ銀行が天引きNISAを開発した経緯と制度内容、営業推進のポイントなどについてレポートする。

みずほ銀行は、お客様の資産形

成を支援し、「貯蓄から投資へ」の流れを促進するために、積極的なNISAの活用推進に取り組んでいる。みずほ証券との連携による商品ラインナップの拡充や利用者の事務手続き軽減などの取組みが好評を博し、みずほ銀行とみずほ証券を合わせて、約50万件のNISA口座の開設を達成している(2014年9月末)。

職域営業においても、積極的な取組みを展開。2008年4月に職域営業部を新設し、給振口座の取扱い、財産形成に役立つ情報の

提供、住宅ローンの相談受け、各種セミナーの実施など、取引先への手厚い福利厚生支援を営業の現場と二人三脚で注力してきた。

「金融面の福利厚生制度が十分に機能していない企業が増えていくことに課題を感じていました。例えば、近年の低金利や利子補給の廃止などで制度のメリットが薄れ、財形貯蓄の残高が年々減少している企業や、住宅資金貸付制度があるにもかかわらず利用が少ない企業などです。こうした中、NISA制度がスタートし、「貯蓄

みずほ銀行にみる「天引きNISA」の効果的な推進方法

福利厚生面の充実を図る

新しい選択肢として企業にPR

若い世代をアプローチの中心に据え積極的に提案